

## 木質バイオマス発電事業における「もみ殻」の活用について

当社子会社の株式会社津軽バイオマスエナジー（以下「津軽BE」、青森県平川市）は、地元農家や造粒機器メーカーの皆様のご協力のもと、「もみ殻」の有効活用に取り組んでおります。

脱穀・籾摺りの工程を経て発生したもみ殻は、これまで堆肥や家畜の敷料などとして活用されてきましたが、畜産農家の減少等により廃棄されるケースが増加しています。

津軽BEでは、発電所周辺の豊かな森林から発生する間伐材を主な燃料として活用しており、近年廃棄されているもみ殻の活用法についても検討を重ねてまいりました。そして今般、地元農家、造粒機器メーカーの皆様と協同して、地元で発生したもみ殻を造粒した固形燃料「モミガライト」を、発電用燃料として活用できるスキームを構築することに成功しました。本取り組みにより、従来廃棄していたものを有価物に生まれ変わらせるだけでなく、輸送等によるCO<sub>2</sub>発生を抑制することで、脱炭素社会への貢献を目指します。

なお、もみ殻については、固定価格買取制度(FIT)におけるバイオマス燃料としてまだ認められていないため、これらの取り組みを基に、次年度以降の認定を目指して関係各所に働きかけていく予定です。

2023年5月10日付で、日本経済新聞電子版に『もみ殻でバイオマス発電などの輸入材代替 青森で相次ぐ』という記事が掲載されておりますので、ぜひご覧ください！



<もみ殻を有効活用したスキーム図>

以上